

平成 20 年度事業報告

社団法人日本滑空協会

《概要》

平成 20 年 12 月より新公益法人認定申請受付が開始され、当協会も電子申請手続きにより申請を進めている。本申請については、新制度適合法人体制を構築することを認定基準として求められるため、法人機構整備ならびに定款はじめ諸関連規程の作成を行っている。認定申請をするにあたり、当協会会員の承認のもと、懸念事項である基本財産（DART 等）の処置を含めすべてを決着することとする。

20 年度は、8 月に世界滑空選手権大会(WGC)を吉田・甲賀両常務理事が自費で視察し、また 3 月には甲賀常務理事が Delegate である梅谷氏と共に IGC 総会に出席をしたが、今後も FAI との連携を通じて世界の潮流に乗れるような体制作りを目指す。

12 月には日本滑空記章試験員の任命ならびに FAI 公式立会人推薦を実施し、説明会に代えて FAI Sporting Code および試験員・立会人業務関係情報を纏めた解説書を試験員、立会人各位に送付したが、今後の国内における銀章取得機会が増加する(規定的には銀章が最も制約が多い)ことを想定して、その具体的説明を含めた内容にした。また、関係者各位のご協力により、滑空記章登録数が昨年度比倍増しており、今後の安全推進に活用していきたい。

20 年度は天候にあまり恵まれなかったが、クラブクラス選手権や安全飛行大会等の飛行イベントを(独)日本スポーツ振興協会助成金やトヨタ自動車㈱、鈴与㈱の協賛金により実施し、若手パイロットの育成に大きく貢献した。

1. 滑空指導者の養成(担当：指定航空従事者養成施設運営委員会)

自家用操縦士の養成一本年度は下記 11 名を養成

期	訓練所	修了日	修了者	
1	関宿	6月9日	4	小守谷雅之 西 文也 室 岳志 山口建男
2	板倉	—	—	訓練生の自己都合により中止
3	宝珠花	6月9日	1	村上浩樹
4	中航連	11月26日	3	佐藤 淳 村上嘉彰 山口孝幸
5	板倉	1月8日	1	江口義和
6	山梨	2月16日	2	高橋賢地 渡邊寛久

2. 滑空選手権の後援ならびに国際大会への選手派遣、推薦

A. 当協会名義後援滑空競技会

2007 年 9 月に日本滑空記章規定変更後、競技会主催団体に野外飛行競技会参加選手の資格要件として、野外飛行技量要件である銅章以上の保有を要請。(競技会規程および実施)要件を満たさない競技会には滑空奨励賞を授与。

a. 第 26 回久住山岳滑翔大会 (2008.5.11~17 於大分県・久住滑空場)

最優秀選手 (基本滑翔競技、記録滑翔競技) へ盾ならびに賞状授与

基本滑翔競技・最優秀選手賞 諏訪弘明 (龍谷大学) 記録滑翔競技・最優秀選手賞 対象者なし

b. 第 12 回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 (2008.8.10~18 於埼玉県・妻沼滑空場)

団体・個人優勝者へ盾授与ならびに団体 (1~3 位)、個人 (1~6 位) へ賞状授与

(団体) 原田覚一郎杯：日本大学 A チーム 団体準優勝：日本大学 B チーム 第 3 位：東海大学 A チーム

(個人) 最優秀選手賞：青山弘希 (日大) 優秀選手賞：齋藤啓太 (日大) 第 3 位：木村理恵 (日大)

第 4 位：近藤 空 (東海大) 第 5 位：谷 葉子 (青山学院大) 第 6 位：真田篤史 (学習院大)

c. 第 11 回東京六大学対抗グライダー競技会 (2008.8.24~31 於埼玉県・妻沼滑空場)

参加校：東京大学、早稲田大学、法政大学、慶應義塾大学、立教大学、明治大学

団体・個人優勝者へ盾ならびに賞状授与。天候不順により競技会不成立。

d. 第 11 回全日本学生グライダー新人競技大会 (2008.10.12~18 於岐阜県・木曾川滑空場)

個人優勝者へ盾授与ならびに団体・個人優勝者へ賞状授与

- (団体) 優勝：慶應義塾大学 (個人) 最優秀選手賞：後藤真徹 (慶應大)
- e. 第3回藤倉チャリティカップ (2008.10.4～13 於群馬県・板倉滑空場)
社団法人日本滑空協会賞として、盾ならびに賞状授与 受賞者 吉田 正 (日本グライダークラブ)
- f. 第38回早慶対抗グライダー競技会 (2009.3.17～22 於埼玉県・妻沼滑空場)
団体・個人優勝者へ社団法人日本滑空協会賞として盾ならびに賞状授与
(団体) 優勝：慶應義塾大学 (個人) 最優秀選手：西山航平 (早稲田大)
- B. 当協会奨励対象滑空競技会
- a. 第48回全国七大学総合体育大会航空の部 (2009.2.25～3.4 於千葉県・関宿滑空場)
審判委員長を派遣 (常務理事 坂井正一郎)
- b. 第49回全日本学生グライダー競技選手権大会 (2009.3.7～15 於埼玉県・妻沼滑空場)
団体・個人優勝者へ滑空奨励賞として盾ならびに賞状授与
(団体) 早稲田大学 A チーム (個人) 知花理江子 (慶應大)
- C. 国際競技会結果報告
- 第30回世界滑空選手権大会 (30thFAI WORLD GLIDING CHAMPIONSHIPS 2008)
(2008.8.3～15 於ドイツ・リュッセ滑空場)
- 15mクラス 27位 丸山 毅 (Ventus 2cxT) /44名
18mクラス 19位 市川 展 (Ventus 2cxa) /50名
3. 当協会主催飛行イベント(航空スポーツ安全確保ならびに普及活動)
- A. 飛行競技会 (日本スポーツ振興基金助成金事業)
クラブクラス滑空競技会 08' (2008.5.4～6 於群馬県 板倉滑空場)
優勝：知花理江子 準優勝：奥田徳幸 3位：鹿野元章
- B. 飛行講習会
- a. 学連アドバンスト・トレーニング(2008.4.12～20 於埼玉県 妻沼滑空場)
(財)日本学生航空連盟との共催により若手パイロットの技術向上を目的に実施。
教官：滝澤信三氏 中村暢宏氏
- b. クロスカントリークリニック (2008.9.20～23 於群馬県・板倉滑空場) 協賛：トヨタ自動車(株)、鈴与(株)
(社)日本グライダークラブとの共催で、滑翔技術向上を目的として実施。
申込者数7名・実施者数3名 (途中、天候不良により一部延期)
教官：丸山 毅氏 茂木 隆氏 使用機体：DuoDiscus T、DuoDiscus XT
- c. 安全飛行大会 (異常姿勢からの回復トレーニング) 協賛：トヨタ自動車(株)、鈴与(株)
- ① 2008.8.20～21 於宮城県・角田滑空場
参加者数5名 教官：大友宏之氏 川合真和氏 齋藤岳志氏 担当：吉田正克常務理事 榊原飛鳥氏
- ② 2008.8.19～21 に千葉県・関宿滑空場で予定されていたが、天候不良のため延期。
- ③ 2008.11.30 於千葉県・関宿滑空場
参加者数9名 教官：坂井正一郎氏 宮澤 誠氏 担当：佐々木 匡氏 吉田正克常務理事 榊原飛鳥氏
- C. 講習会・講演会
- 第30回世界滑空選手権出場報告会 (2008.10.25 於東京都：朝日新聞社東京本社ビル)
上記2.Cの世界滑空選手権に出場した市川 展氏、丸山 毅氏はじめ日本チームスタッフより選手権出場準備から大会期間中における競技状況等についての報告が行なわれた。(主催：チャレンジWGC)
- D. 航空安全講習会 (担当：技量維持連絡会)
国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係るガイドライン”に基づく講習会を開催 (全28回)。当協会主催講習会は8回、他団体主催講習会への講師派遣3回。
講習会運営にあたり、(社)日本航空機操縦士協会が(財)空港環境整備協会の助成金を受け、当協会他、(社)日本飛行連盟、NPO 法人 AOPA-JAPAN、全国自家用ヘリコプター協議会と技量維持連絡会を構成、隔月に連絡会議をもち、講習会を企画、実施した。講師総数92名のうち当協会推薦認定講師は37名。

認定講師研修会 4月～6月	東京・大阪・仙台・札幌・熊本・名古屋において計7回開催			
航空安全講習会	日 時	開催場所	受講者数	講師
	4・12	岐阜	40	佐々木正司氏「ミスの連鎖を断ち切ろう」 山田徳義氏「大野での飛行」 坂井正一郎氏「失敗から学ぼう」
	4・19	大阪 (講師派遣)	35	末永里美氏「グライダーには近寄るな」
	4・20	埼玉 (講師派遣)	78	中村則之氏「最近のグライダー活動」
	7・5	東京	39	中村則之氏「ATCに親しもう」 玉中宏明氏「飛行中の見張りと錯覚」 小野 淳氏「出発前の確認事項」
	9・6	大阪	30	田口 昇氏「ウィンチ曳航の安全確保について」 麻生真也氏「グライダーは厄介者であることの認識」
	10・4	福岡 (講師派遣)	17	河邑英樹氏 「滑空場周辺のグライダー飛行と安全運航について」
	10・12	山口	12	末永里美氏「築城レーダーの実際」 今津太一氏「空中衝突を防ぐ為に」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむ為に」
	11・16	福島	18	角田喜章氏「過去の失敗から学ぼう」 鈴木重輝氏「基本的 ATC」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむために」
	12・14	長野	34	大石敏之氏「航空交通と離着陸のポイント」 鈴木重輝氏「基本的 ATC」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむために」
	1・24	山梨	35	大野木 忍氏「AFR でのレーダーサービスについて」 鈴木重輝氏「基本的 ATC」 坂井正一郎氏「長くフライトを楽しむために」
	2・21	東京	57	櫻井玲子氏「ウェーブによる高高度飛行」 秋山崇道氏「機長の出発前の確認と航空法」 植田展生氏「最近の事故例紹介」

E. 国内滑空記章登録、交付業務

a. 本年度(2008.4.1～2009.3.31) 記章登録実績 (カッコ内はバッジ交付数)

A章 126件(31) B章 83件(20) C章 75件(22) 銅章 58件(18)

昨年度比約2倍の登録数となり、施策の効果が上がっている。

b. 滑空記章試験員ならびに公式立会人任期満了に伴い、2008.12月試験員の認定更新と(財)日本航空協会に対して公式立会人の推薦手続を行ない、試験員77名、公式立会人68名が2009.1.1～2011.12.31までの任期で就任した。

c. 本年度中(2008.4.1～2009.3.31)試験員の各章認定実績

相島正敏氏(4) 朝倉英仁氏(2) 伊藤克憲氏(7) 内海敬三氏(6) 大石敏之氏(6) 大友宏之氏(6)

大野木 忍氏(4) 岡村治彦氏(7) 奥平光保氏(22) 小野一夫氏(3) 加藤隆士氏(1) 金子 稔氏(4)

小林英次氏(1) 小宮英二氏(10) 榊原飛鳥氏(27) 佐志田伸夫氏(2) 下平一晴氏(26) 田口 昇氏(16)

田中 廣氏(25) 玉中宏明氏(10) 土屋宣幸氏(36) 富山 晋氏(12) 中村則之氏(5) 蜷川忠三氏(2)

万場泰雄氏(2) 日口裕二氏(22) 深田 浩氏(13) 藤森義治氏(5) 村井一郎氏(12) 堀田省二郎氏(4)
水川 毅氏(16) 横田裕介氏(7) 吉田 茂氏(6) 吉田正克氏(9) 和田撻征氏(2)

F. 航空スポーツ普及

- a. 「スカイ・レジャー・ジャパン'08 イン静岡」に参加、出展(2008.11.8~9 於静岡県 富士山静岡空港)
運航委員：児玉 敦氏を中心として、大野グライダークラブ、(社)静岡県航空協会、NPO 法人羽生ソアリングクラブ、浜北スカイスports連盟が応募参加、協働して、ピュアグライダー（ウィンチ発航&飛行機曳航）とモーターグライダーのデモフライトを企画、実施した。
- b. 第14回スカイスportsシンポジウム(2008.12.6~7 於日本大学理工学部駿河台校舎 (社)日本航空宇宙学会主催) 担当：鐘尾みや子氏 榊原飛鳥氏

4. FAI ならびに(財)日本航空協会滑空機関連業務

A. スポーティングライセンス申請代行業務

当協会会員からの交付申請を受付、交付申請料は当協会が負担し(財)日本航空協会へ申請を代行。
現ライセンス保有当協会会員数は199名(本年度新規12名、更新63名、継続124名)

B. FAI 関係委員

- a. IGC 委員として梅谷堅三氏(Delegate)ならびに甲賀常務理事 (Alternate Delegate) を、CIMP 委員として嶋田和人氏を(財)日本航空協会を通じて推薦、委嘱した。嶋田氏は昨年度に引き続き CIMP 副委員長に就任した。
- b. IGC 委員会総会 (2009.3.6~7 於スイス・ローザンヌ) に、甲賀常務理事ならびに梅谷堅三氏が出席。

C. 表彰

- a. FAI 賞推薦(表彰：2008.9.19「空の日」 於(財)日本航空協会)
ポール・ティサンディエ・ディプロマ：佐藤一郎氏 エア・スポーツ・メダル：坂井正一郎氏
- b. 日本記録樹立者表彰(2008.10.15 於(財)日本航空協会)
表彰者：市川 展氏 梅谷堅三氏
- c. 記録樹立
日本記録(オープンクラス一般)
自由三角コース距離 市川 展氏 1,014.91 km(2009.1.6 於オーストラリア・ナロマイン/2009.2.27 認定)
三角コース距離 市川 展氏 1,012.63 km(2009.1.15 於オーストラリア・ナロマイン/2009.2.27 認定)
500 km三角速度 市川 展氏 150.50 km/h(2009.1.15 於オーストラリア・ナロマイン/2009.2.27 認定)

5. 専門部会の活動実績

A. 事務局

本年度入会者数 34 名(正会員 29 名、Jr.会員 5 名) 2009.3.31 現在登録会員数 666 名(うち団体会員 8)

B. JSA information 編集委員会 JSA information No.284~287 計 4 冊を刊行。流通部数各 800 部

C. HP 委員会 週 1 回カバー写真、滑空関係情報を更新。申請書類等のダウンロード利便性向上を図った。

D. 指定航空従事者養成施設運営委員会 定例運営委員会 (第1回 2008.6.28 第2回 2009.2.28)

E. 技量維持連絡会(航空安全講習会) 全 4 回開催。活動実績については 3. D. 参照。

F. 国際委員会 活動実績については 4. B. 参照

6. 助成金事業

スポーツ振興基金助成金により、クラブクラス滑空競技会 08'を開催。活動実績については 3. A. 参照

7. 本年度開催会議

通常総会	全 2 回 (第 1 回 2008.6.28 第 2 回 2009.2.28)
理事会	全 2 回 (第 1 回 2008.6.28 第 2 回 2009.2.28)
常務理事会	全 1 回 (第 1 回 2008.10.30)

以上